

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 10 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204466		
法人名	医療法人みやうちグループ		
事業所名	グループホーム五日市ひまわり		
所在地	広島市佐伯区五日市駅前1丁目4-31		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204466-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204466-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年10月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の急変時の対応や施設での看取り、病状不安定な状態での新入居の受け入れなど様々な問題や情報を医療機関と共有できるよう医療連携が出来ている面と、食事は職員が手作りのものを提供しており、畑で採れた旬の野菜を使った料理や、栄養面、嗜好を考えた献立を作成している。他にも入居者様の体調や口腔環境に合わせ、食事形態に対してスピーディーに対応できているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の事業所における特徴的な取り組みとして第一に「運営推進会議を活かした取り組み」に深化が見られる。即ち、家族との日程や季節行事の開催日等を調整し運営推進会議を開催した結果、毎回9～12名の参加を得ることが出来、ケアの質的向上に資する関係構築に繋がった。第二に「事業所と地域とのつきあい」に深化が見られる。即ち、利用者を対象とした認知症カフェ「ひまわりテラス」開設により多彩なボランティア・地域住民の参加を得られ、認知症の理解支援の草の根作りの契機になった。第三に「運営に関する利用者、家族等意見の反映」「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち、コロナ禍で利用者との面会制限の中、家族の要望によりタブレット面会や玄関での窓越し面会を実現した経緯もあった。第四に吟味された食材での三食手作りは利用者にとって最大の楽しみとなっている。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の経営理念、方針に基づき事業所の理念と方針を作っている。また職員で毎月の目標を立て毎朝の朝礼時に理念、方針、目標を読み上げ唱和し職員全体に浸透し実践に繋げている。	母体法人の理念の下に事業所の理念と4方針を策定・掲示しケアを実践する上での原点としている。その達成の為に分かり易い月間目標を立て朝礼唱和と月末評価を行い、年度末には研修を通して理念の達成度を検証している。又、理念を踏まえ職員個人も年間目標を設定し、半期毎の個人面談等で理念の達成度を振り返り実践に繋げるべく気づきを促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の美容院や飲食店、スーパーなどを利用し交流を深めている。畑の野菜をお分けしたり頂いたりしている。保育園との交流が続いている。畑の収穫や仕事への参加も活発にしている。ボランティア訪問も多く近隣の方も参加される。コロナ禍で訪問できず、手作りマスクの提供がありました。	現在はコロナ禍による外出自粛中だが、本来は日頃から近隣への散歩・買い物や初詣・桜・紫陽花見物等の季節行事で外出している。又、二年前から始まった認知症カフェも含め、事業所には多彩なボランティア・地域住民の参加等、相互交流もある。更に地域中学生の職場体験、畑で保育園児との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月1回の認知症カフェの開催でボランティア、学生、近隣の方々に気軽に訪問して頂き認知症の理解支援の方法を理解して頂く機会を持っていたが、現在は自粛しており電話や面接などで地域の方の相談を受けて支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来るだけ多くのご家族様に会議に参加して頂ける様積極的に働きかけており、ご家族の日程などを聞き調整をしている。季節行事と合わせて開催する事で、多くのご家族に参加して頂いている。参加を重ね頂く事で様々な具体的なご意見を提供して頂ききめ細かなサービス向上に活かす事ができている。	直近の会議はコロナ禍による自粛で書面による事前照会となったが、本来は定期的に開催され、家族の過半数・地域包括支援センター職員が毎回、時に消防署職員が参加している。会議では事業所の活動報告・意見交換が行われ、看取りに対する家族の多様な捉え方に触れ、相応しい終の棲家作りに繋げている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の担当者とは日頃から連絡を取りあっている。ご協力を頂きながらサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員又は認知症地域支援推進員が参加し、情報の共有化が図られている。区担当者とは日頃の報告・連絡・相談にて協力関係を構築している。又、市町支援の下、事業所で認知症カフェを開催したり、認知症サポーター養成講座の実習生を受け入れる等の連携も図っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修や法人作成の身体拘束マニュアルを用いて研修を行い勉強会を開き職員全員の理解、周知に取組み拘束しないケアを徹底する。転倒リスクの高い入居者様にはその方の動きにあったセンサーを使用している。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。夜間のみ床センサーマット等を設置している。定期的に委員会を開催して事例検討を行っている。最近では地域的な不審者対策として玄関の施錠に改良を加えた。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待の外部研修に参加したり法人の研修に参加し、伝達研修会で防止に努める。身体虐待のみではなく、言葉や態度による虐待防止の意識を高めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用された入居者様があり、内容については周知しており勉強会で学ぶ機会をつくる。ご家族様や来られた方に見やすい様に玄関には様々な制度のパンフレットを置いている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には不安や疑問の問い合わせがすぐに出来る様に担当者が対応している。契約時には法人の相談員と管理者が文書による説明をし、理解と納得をされた上で契約して頂いている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置やご利用者様満足度アンケートを実施し、頂いたご意見やアンケート結果は記録に残し法人全体で検討する。また、運営推進会議で報告し再度検討を行なっている。	家族とは面会・計画更新時・電話連絡時・運営推進会議（毎回9～12名参加）、年1回の家族会・法人主管による家族アンケート等で意見を把握し、個人ノート等で情報共有を図っている。コロナ禍で利用者との面会制限はあるが、家族の要望によりタブレット面会や玄関での窓越し面会を実現した経緯もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの中から職員の意見や提案を取り入れる様努めている。それらに対する回答は全体ノートを使い共有している。年1回の職員アンケートや半年ごとの人事考課での管理者と面談を行い職員の思いを汲み取り改善に繋げる。リーダー制を導入し細やかな意見を反映されている。	毎月の職員会議、毎日の申し送り、年1回又は毎月(6月から接遇強化等目標別)の職員アンケート、管理者と年2回又は随時の個別面談で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員の要望によりコロナ禍での通勤者用駐車場を確保した経緯がある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入により職員が個々に立てた目標について自分自身を評価する。自分の評価と管理者の乖離については面談の際に話し合いをして各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に2回以上の面接と個別に話し合う機会を設けることにより、個々に必要なことを確認しそれに沿った研修や勉強会に参加することを勧める。また、参加者には参加しやすい勤務を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の同じ事業所の管理者が定期的に会議を開き相互問題を話し合っている。職員間の問題や体制の問題まで幅広く話し合いサービスの向上に繋げている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の面談や見学により相談に努める。サービス開始前より家族の同意を得て情報交換を行い良いケアの為に本人の生活歴や既往歴を把握し記録に残す。担当者を決め対応し安心して生活出来る様関係性を築ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	ご家族のお体の状態や状況なども察しながら日常思われている事願いに耳を傾けながら信頼関係が築けるようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設へ入居され何を求められ必要とされるかを考え今の状態にあったサービスをご家族と共に検討出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	”その人らしく”の思いを常に念頭に置いています。暮らしを支え穏やかに過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いを真摯に受け止め、細やかな報告細やかな配慮を心掛け、共に支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設に入居されるまでのお話、住まわれていた場所のお話など、生活歴等を参考にし傾聴し、話題にして懐かしんで頂き、馴染みの人には、気軽に面会して頂きスムーズに会話が出来の様支援している。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にするも、現在はコロナ禍による面会制限下、医療連携を密にしている。家族の協力も得ながら馴染みの美容院・墓参り・孫の結婚式へ参列等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様にしている。電話や年賀状等のやり取りも日常的である。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係性は様々ですが、1つの社会として受け止め、心地よく関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ地域の一員として解決したい問題は一緒に考え対話し身近な相談相手になれるよう関係性を大事にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一方的な思い込みをせず、日々の暮らしを見つめ、意向をお聞きした時に傾聴し、思いに寄り添った生活を援助している。	利用者毎に担当を決め、利用者の習慣や好み等の基本情報を基に、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、家族情報も参考にしつつ、個人ノート等で共有している。又、目が不自由で幻視もあり、精神的に不安定な方に家族の撮った馴染みの歌声付きの動画を聞かせ不安軽減を図った経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴をお聞きし今に活かせる事柄を継続したり、再度試みたりと思われている事を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、前日からの申し送りとバイタルチェックを行い、体調や心身の状態を把握している。心身の状態の変化にも気をつけながら個人の生活スタイルを尊重している。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成時には個人的な判断はせず、ご家族の意見や希望を伺い、3ヶ月に1回の生活援助計画を職員とのカンファをしていき、その人にあったケアを活かし作成していく。</p>	<p>利用者毎の担当職員と計画作成担当者が家族の意向等を踏まえ立案し、担当者会議で検討して面会時に家族の同意を得て本案としている。毎日実施を確認し、3ヶ月を基本にモニタリングを集約、計画を見直している。ご飯の支度で帰宅願望はあるが、何をすべきか理解困難な方にできる家事の支援を立案した。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録、施設内間の個人ノートで一人一人の情報を共有しケアの向上を目指している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>外食や買い物など活気ある生活を送れるよう援助を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>施設近郊の美容院、理容院などを利用し地域の方と共に安心した暮らしが出来る様支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>現在の体調をしっかりと把握し希望をお聞きし、本人及び家族、職員、医療機関が連携できるよう支援している。</p>	<p>希望があればこれまでの主治医の継続も可能だが、殆どの方は母体の協力医療機関で毎月1回の定期受診と年2回の定期健診を行っている。週2日勤務の看護職員や母体協力医療機関から週1回訪問看護による健康管理、協力歯科医療機関からの往診や週2回歯科衛生士の訪問もあり、適切な医療を受けられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員を配置しており、日頃から介護職員との関係を密にしながら、健康管理や医療面での相談、対応を行い、変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。</p> <p>看護職員が不在の時は介護職員の記録をもとに連携をはかっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、ご家族とともに回復状況等の情報交換をしながら速やかに退院支援に結びつけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人、ご家族のご意向を踏まえ、医師、看護職員、介護職員との連携をとり対応できるケアについて説明を行っている。安心して納得した終末期が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。</p>	<p>要望があれば看取りを行なう方針である。入居時、「重度化した場合及び看取りに関する指針」等にて説明し、重度化した際には家族等、関係者で話し合っって書面による同意の下、指針に基づき適切な支援を行う考えである。過去に数例の経験もあるが、最終的には家族希望により医療機関へ転院するケースが多い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>救急車が到着する前の応急処置や、準備すべきことについて話し合い、また、夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備し、周知徹底している。初期対応後は、迅速に管理者・看護師に連絡をとるように実践されている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルを作成し、消防署の立会いの避難訓練を年に二度行っている。夜間想定、日勤想定で職員、入居者様の訓練を毎月行っている。災害に備え、食料・電池等の備蓄を定期的に点検している。</p> <p>また、地域の方には災害時協力可能な旨を呼びかけている。</p>	<p>消防署の立会いも含め、年2回の避難訓練を夜間想定・利用者参加を含め実施している。又、先の豪雨災害に鑑み、洪水浸水を想定した水害訓練も隔月に実施している。運営推進会議でも災害時に事業所を緊急避難施設として利用可能な旨を発信し地域との協力体制を築いている。所内に災害対策用の備蓄整備もある。</p>	



自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	これまでの人生を含めた人格を尊重する姿勢のもと、入居者様の気持ちを汲んだ声かけ介助を心がけている。また、職員間で話し合いの機会をもち、最適な支援が選択できるように努めている。	職員の殆どが介護福祉士の資格を有し、尊厳を意識した声掛けから始めるケアに取り組んでいる。職員自身の普段の行動を振り返りケアの見直しに繋げる取り組みとして、サービス向上委員会が「職員アンケート」を6月から毎月実施しており、接遇強化等の項目も含まれ、3ヶ月毎に集約・評価・検証中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るかぎり分かりやすい言葉や選択肢を提案して一人一人の利用者様が自己決定できる場面をつくるようにしている。職員側の思い込みや、マニュアル化されたケアが行われない様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の基本的な流れはあるが、入居者様の体調や思いに配慮し、尊重してそれに合わせた対応を心がけている。ニーズに合わせた個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定が難しい入居者様には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援を心がけている。訪問美容や地域の美容院で毛染めやカットをしておしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材や行事食などで季節を感じてもらい、目の前で出来上がるおやつなど食事前後においても、楽しい時間になるよう心がけている。庭の畑で野菜を育てて一緒に収穫し、食べて頂いている。	献立係は利用者の嗜好等を把握・考慮して三食手作りで提供している。保育園児と畑で収穫した野菜が食卓に上ることもある。利用者は食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを行い、鯛焼き作りを楽しんだり、又、時には寿司・甘味処等の外食を楽しんだり、誕生日外食でお祝いを分かち合う事もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日を通して手作りによるバランスの良い食事を提供し職員間で把握している。また一人一人に合わせた食事形態、アレルギーに対応した食事を提供している。 また水分摂取量が確保できるよう、好まれる味・飲みやすい状態の検討、複数回に分けて介助など務めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月4回歯科衛生士の訪問で義歯の手入れ、歯・口腔内の清掃を行っている。歯科衛生士の指導のもと、職員が個々の口腔ケアを行っている。衛生面において、口腔ケアの用具の管理・交換をしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを行動やしぐさで確認・把握を努めている。食前、食後以外にも様子観察、見守りを行い、排泄機能維持のため、トイレで自立した排泄をしていただけるように支援している。	排泄記録表で排泄パターンを把握してトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙・布パンツへの移行や尿意を伝えられるようになったので尿量の少ないパットに移行等、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。可動式手すりや夜間排泄時の転倒防止の為、床センサーマット設置等の環境整備もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便の確認を行っている。便秘傾向の方には整腸作用のある食事、水分を提供している。体操や運動レク等の働きかけをしている。また、便秘傾向の強い方においては、医師と相談し整腸剤や下剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	日勤帯ではあるが、バイタルチェックのもと本人のタイミングで入浴して頂くようにしている。個々の入浴時の確認事項を職員間で把握、統一されたケア内容・手順で支援している。季節に応じ、脱衣所の温度に注意している。	週3回、10～15時の入浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。シャワー浴や足浴で対応することもある。浴槽内に段差がある据え置き式家庭浴槽で寛いだり、冬至の柚子湯等も好評である。日帰りの湯来温泉旅行等で温泉気分を満喫する事もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>ご本人の要望や体調に合わせて 休息や臥床をして頂く。日中は 趣味や家事活動をしていただ いたり、外気浴等をして頂き、 睡眠リズムの改善に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>個々の内服薬の表を作成し看護 師が変更等あれば分かりやすい 様に用法や用量を記入し管理し ている。変更等あれば申し送り や個人ノートを活用し全職員が 共有できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>食後の食器洗いは自らエプロン を付け流し台に立ちお手伝いさ れ張り合いを持たれている。趣 味の琴演奏が出来る様、準備 や片付けを援助している。入 居者様と一緒に構想を練り作 品作りのお手伝いをしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>個々の希望を聞き、気候を考え ドライブや買い物に出かけ、近 隣の美容院や整体に職員が同 行したり、お誕生日にはご家 族の予定もお聞きして、ご都合 が合えばご一緒に頂き、食べ たいものをお聞きし、外食の 支援をしている。</p>	<p>普段から近隣への散歩・買 い物を楽しんだり、季節の外 出行事で紫陽花見学・初詣等 の他、家族の協力も得て普段 は行けないような場所への日 帰り温泉旅行・平和公園への 作品献納等、「非日常」を楽しむ こともある。又、大型商業施設 でのグルメや実家への里帰り ドライブ等、個別外出支援も 楽しみの一つである。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>お金が必要な買い物や外食では 、ご本人のご希望を聞き、購 入して頂き立替後ご家族に請 求している。自分で選んで買 い物をして頂く事にたいして の援助をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話をお持ちの方がおられ、毎回電話の取り方やかけ方を、気軽に職員に聞いてこられる。その際、携帯操作などの説明等している。ご友人とのお手紙のやり取りの際も、ポストへは職員が同行したり職員が投函している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気の合う入居者様との席の配置や、日光が苦手な緑内障の方の場合など配慮した、空間づくりに努めている。また季節を感じられる、季節の花や畑でとれた野菜などを飾ったり、手作りカレンダーを飾っている。	菜園に咲く彼岸花・コスモス等、季節の花や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者とするちぎり絵他の壁掛け作品で季節の移ろいが感じられるよう努めている。施設特有の臭いは消し、調理の匂いで食へ誘う。足底がしっかり床につくよう低めの家具調イスとテーブルも既存の事業所開設の経験が活かされた設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆で楽しむレクの他、趣味の裁縫をゆっくりと出来る様、一人用のソファとテーブルを置き、一人で集中できる空間をご用意したり、個々のペースに合わせて、空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅におられた時の、使い慣れた物や思い出深い写真などを飾ったり、クラシックがお好きな方などは、CDをかけたりして居心地の良い工夫をしている。	居室にはベッド・洋服ダンス等が備え付けられ、仏壇・冷蔵庫他、使い慣れた物やDVDデッキ等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。換気や掃除を行い、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや床センサーマットを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険の無いよう椅子やテーブルは低めにしており、テーブルとテーブルの間隔をあけ車椅子や歩行をされる方が、通りやすい様に障害となる物を置かないように心がけている。居室やトイレ、浴室を見て分かりやすい様に表示している。		

V アウトカム項目( ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の経営理念方針に基づき事業所の理念と方針を作っている。職員が毎月の目標をたて毎日朝礼時に管理者と職員で読み上げ全員で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の理髪店や飲食店、スーパー等利用し交流を深めている。行事の時、保育園児やボランティアさんも一緒に参加して頂き交流している。今はコロナ禍で交流が難しいが保育園児さんより作品のプレゼントが届いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月1回認知症カフェを開き、地域ボランティアの方、学生の方、近隣の方に訪問して頂く機会をつくっている。今はコロナ禍で自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的を開催し、地域の方や地域包括の方にも参加して頂き、行事報告や最近の様子などをお伝えし、ご家族の意見や相談等話し合いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	区役所、介護保険課を訪問し、運営推進会議録や新聞等お渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に職員が外部へ研修にいき、研修を受けた職員がホーム内で勉強会をし、全員で身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に職員が外部へ研修にいき、研修を受けた職員がホーム内で勉強会を開き、虐待を見過ごさない様に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去に入居者に日常生活支援事業所や成年後見制度を利用されていた方がいらっしゃり、内容については周知している。勉強会を開き、学ぶ機会をつくっている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の前後、不安や疑問の問い合わせができるよう担当者を決めて対応している。契約時は複数人で対応し十分な説明を行い理解納得をされた上で契約を行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方、外部の方が入れやすい場所に意見箱を設置している。介護計画説明時にご家族の要望や意見をお伺いし、ケアプランに反映している。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を開催し、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。半年に1回、管理者と面談を行い、意見や相談など行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半年に1回人事考課を行い、個人目標をたて、成果を確認し反省を行い、管理者と面談し話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回ホーム内で勉強会を開催している。外部の研修にも参加する機会を作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内にグループホームが6件あり、交流や研修をしている。また、ホーム長会議を通じて各ホームの取り組み、活動報告を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に見学や面談を行い、入居決定時にはご家族の同意を得てより良いケアの為にご本人の生活歴の把握に努めている。担当を決め、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前のヒアリングはしっかりと行っており、入所後も面会時や電話連絡にてご本人の様子や変化が見られた時は報告させていただいている。面会時は特にご希望やご本人の為に必要な物品などの検討やお願いをすることもある。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の歩行や口腔内の状態その他生活にかかる事を見させていただき必要な他サービスにつなげられるようにしている。具体的には、訪問サービスのあるマッサージや歯科衛生士による訪問口腔ケアをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様とは生活にかかる家事、職員の制服を含む洗濯物たたみを分担して畳んだり、調理行程の一部可能なものをお願いし参加して頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いを汲み取り施設内でご本人の声をなるべくお届けし、食べたい物や行きたい場所などを伝え、なるべく本人の希望が叶う様に努めている。またご主人様の葬儀の際にはご家族ご協力の上、参列出来るように支援させていただくことが出来ました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のご友人の面会などの際にはご友人様と職員の関係づくりに心掛け、気兼ねなく面会に来て頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話が噛みあう気の合う方同士の席を近づけたり時折噛みあわなくてトラブルになる方などは職員が間に入り会話がスムーズにできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後のご家族様とも退居後数年経過するが関係性を保っており、施設の行事などに招待させていただいている。また地域でお会いした時もお互いに挨拶ができる様心掛けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	さりげない一言や本人と向き合っのヒアリングから本人の希望、意向の把握に努めている。直接言葉に出さない方も表情や様子を観させていただきなるべく本人の意向に近づく努力をして支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	新規入居の際にはアセスメントを確認し生活環境を考慮しながら居室の家具の配置やポータブルトイレの設置位置などを決めている。また、入所後も生活歴など会話の中で得られる言葉を頼りに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝に行う血圧測定の際にご本人の状態を観察し表情やしゃべり方などからその日の状態を見て出来る事を提供していく。その際にいつもの違いなどに目を配りご本人の有する力等に変化がないか判断している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	三か月に一度ないし状態が急激に変化した時等はカンファレンスを設け職員同士での意見交換を行っている。全体的に統一できたら家族様などに協力願える部分と施設で出来る部分とのすみわけを行い本人がより良く暮らすための介護計画を作成してる。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特記があれば詳細を記録し申し送りで翌日に繋がる様に心掛けている。職員間で情報共有することで介護方法の新しいアイデアや成功例失敗例の共有が出来るため重宝している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人のニーズを見ながら取り入れられるあたらしいことを模索し安全面に配慮しながら柔軟な支援に取り組んでいる。直近のものであるとお茶を嫌う方には本人の好みである炭酸ジュースを購入し飲んで頂くなどして、ご本人に合わせた支援をしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行きつけの料理店などを定期的にご利用し店主との関わりも継続している。また散髪もなるべく地域の床屋を利用し本人が地域に出ていくキッカケにもなっている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の際に主治医と本人が話しやすい様に間をとりもちなるべく本人の思いが主治医に伝えられるようにしている。またご家族が受診に同行されることもありご家族の理解を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護と24時間のオンコール体制をとっている。また当施設にも週3回非常勤の正看護師と准看護師が勤務しており、入居者様の健康管理の把握に努めている。週1回は法人の看護部長も訪問がある。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時の入院に関しては可能な限り職員が付き添い、病院関係者の問診をし連携に努める。入院中も面会に訪れこちらの情報提供を行うとともに入院中の状態について相談員からの情報収集に努める。入退院時もスムーズにサービスが提供出来る様話し合いの機会を作っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に重度化した場合の指針について説明を行っている。ご家族にケアプランの説明をする際もご本人様の在り方について勸化手頃くきかけが出来様問いかけを行っている。看取りについては、主治医からの指示、説明をもとに施設で可能な場合ご希望があれば、当ホームで終末期を過ごして頂く。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルに基づき医師や看護師からの指示に適切に対応できるようにしている。初期対応後は素早く管理者・看護師に連絡を取るよう実践されている。既往歴を持っておられる入居者様の症状について職員で知識を共有している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の立ち合いの下、避難訓練を行っている。災害を想定した訓練は、時期に合わせ水害訓練も行っている。地域住民の方には、災害時に援助を行って頂ける様お願いをしている。災害時の食料、電池、飲料水の備蓄とを行い、定期的に点検を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけ、介助方法、対応、関わり方について職員間で確認をし話し合いながら、入居者様それぞれに最適な対応が図れるように援助を行っている。入居者様の今だけではなくこれまでのその方が生きてこられた人生を含めて人格、気持ちを尊重する様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人の状態に合わせて傾聴し分かりやすい声かけを心掛け、入居者様の思い要望が入居者様の持つておられる力で決定出来る様気持ちに寄り添ったケアが行われるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の基本的な流れはあるが、入居者様のペースを大切にしている。入居者様が何を考え、何を思っているのかを汲み取り、一日を安心して過ごして頂ける様に職員間でも、連携を取って支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前に一緒に服を選んだり、行事の時などお化粧をしたりとおしゃれを楽しんで頂く工夫をしている。定期的に散髪（毛染め・パーマ）を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事で季節を感じて頂ける様旬な食材を取り入れたり、畑で収穫した野菜などを取り入れ行事食を提供したりしている。誕生日には本人様のお好きなものを準備したり外食（今は中止）出掛けたりしている。入居者様の嚥下状態を考慮しながらも、見た目も大切にして食事形態を工夫している。簡単な下ごしらえや食器洗いなど職員見守りの元して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の口腔内や嚥下状態、疾病などを考慮して食事形態や塩分、水分等の摂取が出来る様心掛けている。水分摂取量が出来る様心掛けている。水分摂取量が不足している方には好みの飲み物を摂取し水分量確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>月に四回訪問口腔ケアが入っており歯科衛生士の指示の元、一日二回から三回食後に口腔ケアを行っている。口腔内や歯など異常がみられたら、提携している近所の歯科医院に連絡して往診に来てもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者様個々の排泄パターン、タイミングを把握し、トイレへお連れし介助を行い排泄機能の維持に努めている。日中は布パンツで夜間はパット装着や紙パンツなど生活のリズムに合わせた対応、介助をしていくようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動（散歩・体操）としっかりと水分を摂って頂くように声かけ援助している。難しい方には主治医に相談し薬剤による排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調（バイタルチェック）や状態を考慮し無理強いすることなくきちんとお話をし気持ちよく良く入って頂く様心掛けている。職員間で情報を共有し入浴時の確認事項など整理し把握する。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>趣味や、特技を生かす活動やレクリエーションを実施し 夜間に質の良い睡眠がとれるように援助している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の服薬情報をファイルし、変更があった時は薬剤情報により、全職員に報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>過去の生活歴を参考に思考や楽しみにあった生活ができるように援助している。また、外気浴や庭の畑での収穫などで気分転換を進めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節毎の外出を年間計画している。興味深い催し物がある時は、その都度外出の援助をしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族様・管理者・職員が話し合っ考えている。入居者様の希望に出来るだけ応じれるように考え支援している。気の知れたご友人と銭湯へ行き食事やお土産を購入したりできている。</p>		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望により、電話を取り次ぐ援助をしている。葉書や便せんを用意しており年賀や季節の挨拶をご家族や知人とやり取りできるように援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が使用される個室には大きなクローゼットを配置している。洗面台を居室内に設置し共有スペースに出る前に整容出来る。使い慣れた小物や家具類を持ち込んで頂くことが可能であり、なかには冷蔵庫・テレビ・CDデッキを持ち込みされて、他者に気兼ねなく楽しむことが出来る空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関先や廊下にベンチを用意しており、環境を変え気のあったご利用者様で座れるように配慮している。庭にはウッドデッキがあり、季節の花や野鳥を見つお茶ができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、今まで大切にされていたタンスやテーブル、思い出がある写真や人形などの小物を置いて頂く。自分と家族様の居場所として使っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体は、バリアフリーの設計がされ誰もが使えるように工夫されている。椅子や手すり、トイレの便器は通常より低い位置に設定されている。残された力が生かされるよう入浴場・脱衣場には手すりを追加している。各居室の表示やトイレなどをわかりやすく表示している。		

V アウトカム項目( ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市ひまわり

作成日 令和2年11月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の対策で小規模な為自家発電や備蓄対応が十分ではないのではないか、職員全員がハザードマップを認識できていない。	職員全員が自家発電と備蓄品の場所を周知し浸出想定地域を認識する。	自家発電や備蓄品の種類や消費期限等が分かりやすい様表にする。職員が浸出想定地域を周知出来る様ハザードマップを掲示し、防災訓練で災害時の行動を身に付ける。	2021.8
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。